

古戸地区集落座談会 会議録

1. 会議名称 古戸地区集落座談会
2. 開催日時 平成 29 年 2 月 26 日（日）午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分まで
3. 開催場所 古戸会館
4. 会議に出席した者の氏名

農業者	13 名
農業委員	1 名
農地利用最適化推進員	2 名
農業委員会事務局	2 名
東葛飾農業事務所	2 名
農政課	4 名

5. 協議区域の範囲 古戸集落
6. 議題
 - (1) 人・農地プラン策定による事業の活用について
 - (2) 農地中間管理機構による協力金の活用について
 - (3) 多面的機能支払制度について
 - (4) 集落営農について
 - (5) その他
7. 協議結果を取りまとめた年月日 平成 29 年 2 月 26 日（日）
8. 会議の内容

農政課から、人・農地プラン策定事業として集落座談会開催の趣旨を説明した。

続いて、各地域の農業の現状（農業者の高齢化や耕作放棄地の増加等）を説明した。

そして「人と農地の問題を解決する」ための国の諸施策について、以下の説明を行った。

- ・地域の農業や農地の問題をどのように解決していくのかを計画する「人・農地プラン」の説明を行った。さらに、担い手に農地を集約していくための施策として農地中間管理事業の説明を行った。
- ・集落で農地整備等を行い、交付を受ける多面的機能支払いについて説明を行った。
- ・千葉県東葛農業事務所より集落営農について説明を行った。

農政課が説明をした後の農業者との話し合いの内容は次のとおり。

事務局：話し合いを進めていくため、皆さんの農地を色分けしている農地利用図を作成したので活用してほしい。（農地利用図を見せる）

農業者：人・農地プランは、地区や集落で作成できるのか。

事務局：地区や集落の単位で作成できる。

農業者：人・農地プランと中間管理事業の関係では、集落で中間管理事業を実施する前、人・農地プランを作成するべきか。

事務局：人・農地プランは、集落における将来の農業の設計図であるため、先に人・農地プランを策定する方が望ましい。

農業者：今年度に江蔵地地区で人・農地プランを策定し、中間管理事業を実施したという

ことだが、市内で古戸が2番目に事業を実施するということか。

事務局：そうではない。本日の座談会は、農業者の意見を聞き、古戸地区の現状を把握するために開いたのであって、事業を実施するためではない。

農業者：現在、古戸地区では頑張って耕作している人がいるから、支援等が必要なときに市もしくは県で支援してほしい。

農業者：古戸地区には、今は耕作を行える担い手がいるが、5年後、10年後はどうなっているか分からない。今のうちに将来の計画を立てた方がよい。

事務局：担い手がいなくなってから地区の農業を考えるより、その状況になる前に、早めに計画を立てておくことが望ましい。

農業者：国の補助金などは、大規模農家ばかりが優遇されている。小規模農家にも補助金を出すなど、切り捨てずに考えてほしい。国の農政に対する考えが甘い。

事務局：事実、国の政策は農地を集約する方向で動いている。何人かでグループとしてまとまり補助金を受ける対象となることもある。

農業者：八千代市や佐倉市では、農業者が何軒かまとまって育苗ハウスを使ったり、共同でコンバインを使っている。我孫子市では、まとまる団体がいないため弱い。また、個人で販売する農家が多いため、JAへの出荷者が減り、まとまるのが難しくなった。

農業者：柴崎の農家では、チームを作りまとまっている。埼玉では、同世代の農業者が集まり、米のブランド化など地区で農業の特色を出して商品の差別化を図るなどがある。

農業者：地域で耕作している人たちの本音を聞いてみたい。地域の皆がどのように考えているか知りたい。集落にアンケートを行ってみてはどうか。

農業者：行政の声掛けにより、このような座談会を何度も開催しなければ、何かやろうという機運はなかなか高まらない。行政も本気でやる必要がある。

事務局：集落の座談会は回数を重ね、意見を集約していくものである。その過程で機運の高まりを農家組合長と情報共有したうえで、必要があれば座談会の開催を呼びかけていく。

農業者：太陽光発電の設置が野放図に行われている。農業委員会は何か対策を考えないのか。太陽光にされると耕作する気が落ちる。

事務局：転用される前になるべく担い手への集積を進めてほしいが、地権者の意向もあり抑止は難しい。

以上。